

衛生動物シリーズ ブユ

都会ではなじみが少ないかもしれませんが，山間部でよく発生する害虫です。地方によってはブトとも言われます。成虫の体の大きさは，3~5mm程度です。人の皮膚に傷を付け，染み出した血液をなめるように吸血します。そのため吸血されたあとは，うっすら血がにじむことがあります。ブユに吸血されるとかゆさは格別です。人によっては赤くはれあがることもあります。

吸血する種類

河川に多くの種類の幼虫が生息する場合でも，人を吸血するのは限られた種類です。京都市において，吸血してくる種類はニホンヤマブユやアオキツメトゲブユが多かったのですが，最近ではキアシツメトゲブユによる吸血が確認されています。吸血はメスだけが行い，吸血することによって，産卵することができます。

山紫水明のあかし？

ブユは卵，幼虫，さなぎ，成虫と発育します。幼虫，さなぎは，水質のきれいな河川で発生します。早瀬や落ち込みなど特に流れの早いところの岩や流れに垂れている草木に吸着し成長します。水量の多い河川に好んで発生する種類，水量の少ない河川に好んで発生する種類など，場所によって発生する種類が異なります。キアシツメトゲブユは比較的水量の多い河川に発生します。

家庭排水や工場廃水などが流れ込む河川や，平野部の流れのゆるやかな河川では生息できません。ブユの吸血被害は困りものですが，ブユが生息しているということは，河川の水質が良好で，自然が豊かと言えるでしょう。

吸血被害の防止

河川に殺虫剤を散布して，河川に生息するブユ幼虫を駆除してしまおうという方法もありますが，河川に生息する魚類や他の生物に対する影響を考えると殺虫剤散布は避けるべきです。消極的ですが，吸血被害を防ぐには，吸血に来る成虫への対策に限られます。

昔，京都の北東にあたる大原地方の女性が大原女と言われ，農作業や行商の折に頭から手ぬぐいをかぶり，手を手甲てこうで覆い，足には脚絆きゃはんを巻いた独特の衣装を身にまとっていたことは有名です。こうした独特の衣装は，皮膚の露出部をできるだけ少なくしてブユに吸血されることを防ぐための工夫だといわれています。現代でも基本は同じです。長袖，長ズボンなど皮膚の露出部をできるだけ少なくすることがブユの被害防止に有効です。

また，ハイキングや野外での農作業の折にブユの飛来が激しければ，市販されている虫よけスプレーを使用するとよいでしょう。

キアシツメトゲブユ



幼虫



さなぎ



成虫